

# E

# ELDER

エルダーの旅便り

2004  
冬春号  
12月～3月  
プログラム

エルダー旅倶楽部 世界を舞台に楽しく学ぶ大人の教室

通巻168号

## 十勝の空で風になる 熱気球フリーフライト

1年のうちもっとも気候が安定し、抜けるような青空が広がる冬の十勝平野。2月の十勝講座では熱気球フリーフライトに挑戦します。「飛行機より安全」という熱気球のパイロット小田切さんにその魅力を聞きました。

### 揺れもスピードもない 静寂の世界

「熱気球」と聞いて、高いところが苦手な人はためらうかもしれませんが、飛行機に乗れる人ならまったく大丈夫。飛行機と違って、揺れも音もスピードも感じません。風そのものに乗るのりものですから、上空に留まる「係留フライト」より、自由に風に乗って300メートル付近まで上昇する「フリーフライト」のほうが怖さを感じないかもしれません。一定の高さを過ぎると、きつともう怖い気持ちを忘れ、空からのながめにうっとりと見とれることでしょう。

### 正確さを競う 熱気球の競技フライト

熱気球を操縦するには風を読むことが必要です。風を読んで操縦するところはヨットに似ていますが、気球では立体的に風を読むことが求められるのです。たとえば、上空300メートルまでは北の風、300メートル以上は西の風が吹いていると、高さを変えることによって別の風に乗る、気球を北や西に進めることができるのです。

熱気球にもほかのスポーツ同様、競技会



があります。競うのはスピードではなく正確さ。5～10キロ離れた目標地点にいかにか正確に着陸することができるか。上位クラスになると誤差は数メートル以内です。なお、熱気球の操縦には免許（国家資格ではない）が必要で、学科と実地の試験にパスすると日本気球連盟が免許証を発行します。

### 早朝のフライトで見られる サンビラー（太陽柱）

いままで気球で飛んだなかでは、スイスの山々も美しかったですし、北海道では摩周湖上空からの景色もすばらしかった。冬の北海道ならではの景色に、「ダイヤモンドダスト」（空気中の水蒸気が氷になったもの）や「サンビラー」（ダイヤモンドダストに太陽光が反射して見える黄金の柱）がありますが、早朝に太陽が昇るころ熱気球に乗ると、かなりの確率でサンビラーが見られます。

自分の手でほんとうに雲がつかめてしまうような体験は、熱気球ならではの。ぜひとも十勝へお越しください。私といっしょに、美しい大空を飛びましょう。（談）

⇒小田切さんと熱気球に乗る十勝講座は P12

小田切 光 Odagiri Hikaru

学生時代、熱気球サークルに所属。その魅力にとりつかれ、社会人になってライセンスを取得する。風あつて鹿追町に移り住み、本格的に熱気球パイロットとして活動をはじめ、気球ファンにフリーフライト体験を提供したり、国内外の大会やイベントで活躍。気球歴15年の日本気球連盟インストラクターパイロット。飛行時間800時間、飛行回数750回

